

# 海外留学 先輩の声

留学先・派遣先大学名（国名）：台北医学大学（台湾）



留学中のお気に入りの写真



コメント：十分でみんなでランタンをあげました

Q.今回の留学プログラムの感想

現地での研究室配属により、研究がどのようなものなのか知ることができた。自身は研究の経験がなかったため、基本的なことから教わった。自分は将来、臨床と研究のどちらに進みたいのか考えが全くなかったが、今回の留学を通してどちらの道に進むのか決める上での大きな一助を得た。留学は自分の視野を広げるだけでなく、自分を成長させるきっかけになると考える。事実、現地の学生はレベルの高い人が多く、自分ももっと頑張らなくてはと感じたほか、自分に足りないことも分かり、これからの自分に何が必要か気づくことができた。今回の留学は非常に意義のある経験になった。

Q.健康管理や危機管理について

睡眠はしっかり取るよう心掛けた。現金は一つにまとめず、分散して保管した。この際、ホテルの金庫を上手く活用した。ホテルのルームキーをなくしそうになりヒヤッとした(大学の研究室に落とした)。

Q.今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ

目的をはっきりさせたく留学に行くことが大切である。目的をはっきりさせないとただ行っただけになってしまう可能性があるからだ。目的を明確にすることで得られるものがより多くなると考える。台湾は1人ずつ研究室に配属されるため学年が上がってから行こうと考えている人もいるかもしれないが、自分は学年が早いうちに行くことをお勧めする。特に将来の進路が決まっていない人（臨床と研究のどちらに進むか決まっていない人）は2年生で行くことをお勧めする。

Q.留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと

海外に行くのが初めてだったため分からないことが多く不安だった。自分は英語が苦手なため、現地でうまくコミュニケーションを取れるか不安だった。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。  
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

# 海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：台北医学大学(台湾)

## 留学中のお気に入りの写真



コメント：台北のパワースポット「龍山寺」で学業向上をお祈りしてきました！！

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。  
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

### Q. 今回の留学プログラムの感想

研修室への配属、授業への参加、赤十字の見学、さらにはハイキングに至るまで、念入りの計画と準備をしてくださったおかげで、非常に充実した10日間を過ごすことができました。また、私が配属された研究室には台湾出身の学生のみならず、インドネシア、フィンランド出身の学生もいらしゃり、日本にいる限りあまり経験することのできない国際交流も経験することができました。私は自分の英語力に自信がなく、昨年日本にきて下り学年で文化交流をした際には、留学生とほとんど話すことができませんでした。交流会が終わった後に、「もう少し英語が話せるようになれば楽しいだろうな」と感じていました。今回の研修に参加した理由として英語での会話に奥手な自分を変えたいという思いが少なからずありました。研修中は、拙い英語でも話さなければコミュニケーションが一切取れないという状況で、何としてでも自分の持っている知識を最大限に使ってコミュニケーションをとるという試みを繰り返し行いました。英語力には自信がないですが、「伝えようとする、聞き取ろうとする」ことの繰り返しでコミュニケーションは成立し、受け身の姿勢だけでは得ることのできなかった知見を得ることができたと強く感じました。

### Q. 健康管理や危機管理について

暑い日が多かったですが、夜になると冷え込んだり、雨の日には気温がとても下がりました。そのため、気温差には十分注意すべきであり、調節しやすい服装を用意することが大切であると感じました。

### Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ

研修に参加するまでは英語力に自信がなく、海外の学生と交流することに消極的でした。しかし、こんな私でも「何とかして伝えようとする、聞き取ろうとする」このことの繰り返しで楽しくコミュニケーションをとることができました。英語でのコミュニケーションを活発にとるには私の英語力ではもちろん不十分です。しかし、受け身にならず自分からアクションを起こすことでこれまで得ることができなかった知識や経験を得ることができました。TMUの教授の方々や学生はとても親切で私たち日本の学生に歩み寄って来てくださいます。その優しさに乗って見たり感じたりする世界をより大きく広げてみたいかがでしようか。私はこの研修に参加して本当に良かったと感じています。

### Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前など大変や不安だったこと

自分の英語力に自信がないことで、選考の際の英語での面接が不安でした。また派遣が決まってからも、英語力に自信がないことで、現地の学生と上手くコミュニケーションが取れるだろうか、研究室でやり方が分からずに迷惑ばかりかけないだろうか、などたくさん不安を抱えながらプログラムに参加しました。

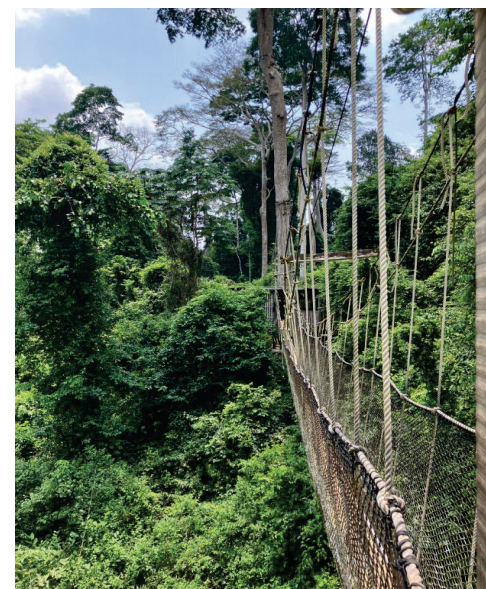
# 海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：ガーナ大学（ガーナ）

<b>Q. 今回の留学プログラムの感想</b>	ガーナ研修に参加した目的は、途上国の医療体制やその背景にある価値観や文化、地理的要因を学び、JICA事務所の訪問ではJICAの活動がどのようにガーナの医療に貢献しているか理解を深めることでした。現地ではJICA事務所の訪問に加え、地域の病院で働くJICA隊員の方に病院を案内していただいたり、野口記念医学研究所に滞在していた臨床検査技師がバックグラウンドの方にお話をいただいたりしました。これらの経験により、ガーナの医療体制について理解を深め、どのように国際協力ができるのか学び、将来のキャリアについて考えるきっかけになりました。観光中はマーケットで買い物をしたり、海や山を訪れたり、野生動物を目にする機会もあり、ガーナでしか味わえない自然の魅力を存分に感じることができました。
<b>Q. 健康管理や危機管理について</b>	健康管理については、氷の入った飲み物は飲まない、生のものを食べないということに気を付け下痢などにならないように注意しました。危機管理として、一人では行動しない、移動は車ですといったことに気を付けました。また、車道には多くの物乞いや物売りの人がいるため、目をあまり合わせないように注意しました。
<b>Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ</b>	ガーナはアフリカにあり、飛行時間は20時間以上、時差は9時間ある国ですが、大学生のうちにアフリカに行けることはとても貴重な経験だと思います。費用や治安、食事など不安なことはたくさんあると思いますが、途上国での生活がどのようなものかを実際に経験し、医療体制や検査室の現状を学ぶことは自分自身の視野を広げることに繋がります。道路をニワトリやヤギが横断していたり、道路がアスファルトではないなど、日本では経験できないことがたくさんあり、毎日、様々なことに興味をもち、刺激を得られます！ガーナでの生活や治安などの不安により参加するか迷っている方は、先生方もたくさん助けてくれるので、ぜひ勇気を出して応募してみてください！
<b>Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと</b>	渡航前に、奨学金や保険など多くの書類を提出する必要があったため、漏れがなく提出できているかという不安はありました。英語でコミュニケーションがとれるかという心配もありましたが、現地の学生や先生方はとても温かく親切で、話の内容を理解できるまで丁寧に教えていただきました。

## 留学中のお気に入りの写真



コメント：カクム国立公園での写真です！全身で自然を感じました！

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。  
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

# 海外留学 先輩の声

留学先・派遣先大学名（国名）：ガーナ大学（ガーナ）



留学中のお気に入りの写真



コメント：シャイヒルからの眺め

<p><b>Q. 今回の留学プログラムの感想</b></p>	<p>私がガーナ大学での研修に興味を持ったのは入学前で、せっかく海外研修に参加するのであれば旅行ではなかなか行く機会のない国に挑戦したいと考えたことがきっかけでした。しかし、自身の英語力やガーナという未知の環境への不安から応募をためらっていました。そうした中で、昨年参加された先輩から「非常に刺激的で貴重な経験になる」と後押しをいただき、不安ながらも挑戦する決断をしました。実際の現地での活動は想像以上に刺激的で、移動中の車窓から見える景色でさえ目が離せないほど新鮮なものでした。研修では医療施設の見学やJICA隊員の方々との交流を行いました。3年後期に病院実習を終えていたこともあり、日本とガーナの検査室の違いを理解することを目標に見学に臨みましたが、1日に扱う検体数の違いはあるものの、使用している検査機器や精度管理など共通点も多く、自分が日本で学んできた知識が異なる環境でも通用することを実感しました。この経験は、自身の専門性への自信につながる大きな成長の一つとなりました。また、JICA隊員の方々の話を現地でも聞くことで、設備や人材、資源に限られる中で医療が行われている現実や、それに対する試行錯誤をより具体的に理解することができました。特に、日本から検査機器を導入しても、それを継続的に運用することの難しさや、「誰でもどこでも簡単に」検査を行える技術の重要性についてのお話は強く印象に残っています。こうした学びは、自分の将来像や目標をより明確にするきっかけとなりました。さらに、ガーナの文化理解の一環として、現地の料理に積極的に挑戦することを目標としていましたが、主要なガーナ料理を一通り経験することができました。地域ごとに特色があり、特産の地域で食べる料理はより美味しく感じられたことや、同じ地域でも店舗によって味付けが異なるなど、多くの発見がありました。こうした経験を通して、異文化を実際に体験しながら理解していく姿勢の重要性を実感しました。</p>
<p><b>Q. 健康管理や危機管理について</b></p>	<p>滞在中は想定外のトラブルが起こることを実感しました。イスタンブール空港での乗り継ぎ時に、機内持ち込み荷物の一部が急遽預け荷物となり、その中にイエローカードを入れてしまいました。その結果、ガーナ入国時に提示できず別ルートに案内されましたが、現地セキュリティスタッフの助けにより無事に対応できました。この経験から、パスポートとイエローカードは必ず一緒に管理し、すぐに提示できる状態にしておくことが重要だと感じました。また、虫よけ対策をしていたにもかかわらず夜間に虫に刺され、不安を感じる場面がありました。体への対策だけでなく、部屋全体にも虫よけ対策を行うことが重要です。さらに、刺されてしまった場合は一人で抱え込まず、早めに先生に相談することが大切だと感じました。</p>
<p><b>Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ</b></p>	<p>ガーナに行く機会を持てる人は決して多くないと思います。だからこそ、この研修を通して現地の文化を全身で体感してほしいです。「海外に行く人人生や価値観が変わる」とよく言われますが、ガーナでの経験はそれに加えて、検査技術学専攻としてこれまで学んできた知識や技術が世界でどの程度通用するのか、またどのような課題があるのかを具体的に考えるきっかけになります。将来、臨床の現場に進む場合でも、企業就職の道に進む場合でも、自分が何をしたいのかを見つめ直す貴重な機会になるはずです。ガーナに行くかどうかで、検査技術学に対する向き合い方や心構えは大きく変わると感じました。</p>
<p><b>Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと</b></p>	<p>英語に関して全く自信がなかったのがその点が一番不安でした。ガーナに行ってみたら違和感なく過ごせましたが、行く前は食事のあわあわいは不安要素ではありました。</p>

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。  
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同